

薬学教育委員会 議事要旨

日 時：令和8年6月5日（金）13:30～16:30

場 所：日本薬剤師会 第1会議室（WEB併用）

出席者：渡邊副会長、長津、山田（武）両常務理事、小黒、山浦（WEB）、
日高各理事、成重委員長、田極副委員長、宮崎（WEB）、森川、日下部、
長谷川（WEB）、伊藤、青野（WEB）各委員。

議 題：

1. 新薬剤師養成問題懇談会〔2月16日〕（報告）
2. 薬学教育委員会 病院・薬局実務実習中央調整機構委員会〔4月24日〕
（報告）
3. 薬学教育協議会 薬学実務実習ガイドライン改訂WG〔6月4日〕（報告）
4. 令和4年度改訂カリキュラム対応教材について
5. 評価実施員の推薦について
6. その他

資料

- 1-1. 新薬剤師養成問題懇談会〔2月16日〕次第、名簿
- 2. 同 提出議題一覧及び全国薬科大学長・薬学部長会議資料
- 3. 同 議事メモ（日薬事務局作成）
- 2-1. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習中央調整機構委員会〔4月24日〕
次第
- 2. 同 議事録
3. 同 薬学実務実習ガイドライン改訂WG〔6月4日〕関連資料
*資料無し
- 4-1. 令和4年度改訂カリキュラム対応教材作成割り振り
- 2. 同 教材素案
5. 薬学教育評価機構からの評価実施員推薦依頼及び2025年度評価者研修
会プログラム

参考資料

1. 前回〔令和7年12月1日〕議事要旨

はじめに、渡邊副会長より開催挨拶が述べられ、その後、成重委員長、田極副委員長の議事で進行された。各議題に関する主な報告事項、協議事項等の内容は下記のとおり。

議題 1. 新薬剤師養成問題懇談会〔2月16日〕（報告）

標記懇談会については、当日本会より出席した、渡邊副会長、長津常務理事より概要が報告された。はじめに、本会が提出した3議題、『定員充足率、薬剤師国家試験合格率等で問題を抱える大学への今後の対応』、『薬科大学・薬学部における地域枠の拡充』、『薬剤師国家試験委員の構成』に関する協議内容について報告された。更に他団体からの提出議題として、全国薬科大学長・薬学部長会議より『薬学実務実習の実習費』が協議事項として提出され、同会議の出席者から、昨今都心の一部の病院実習の実習費が高額化していること、及び数年後に開始予定の薬学実践実習に関して実習費の考え方が示されていないことから、これらにつき早めの協議が必要ではないか、との指摘があり、協議の結果、実習費に関しては、今後薬学教育協議会に検討の場を設け検討することが了承された旨、併せて報告された。これらの報告を受け、出席委員からは、「6年制の実務実習開始後約15年経過した中で、一度も実習費のあり方について議論されたことがなく、薬局の実習費は、消費税の上昇分を除けば、ほぼ変更が無いまま現在に至った。時期的には検討すべき時期と思われる。」との意見があった。また大学関係者からは、「大学側からすれば、学生の負担という点から実習費の値上げは避けたいが、近年の社会的な物価及び人件費の上昇等考慮すれば、実習費についての議論自体は必要と思われる。」との意見があった。

議題 2. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習中央調整機構委員会〔4月24日〕（報告）

本件については、当日代理出席した山田（武）常務理事から概要が報告された。主に2025年度（令和7年度）の第Ⅳ期実務実習に関する良い事例及びトラブル事例について各地区代表より報告があったことが説明された。また、この日は先般ある地区で、当該地区出身でない他地区大学の学生の、病院実習受入について打診があり、当該地区では協議の結果、ふるさと実習とは認められないので受け入れられないと、申請大学に回答し、協議会としてもそれを了承したとの事例があったことが報告された。なお、薬学教育協議会では、今回の件を受け、ふるさと実習のあり方全般につき、今後協議予定とされた旨併せて説明された。

議題 3. 薬学教育協議会 薬学実務実習ガイドライン改訂WG〔6月4日〕（報告）

本件については、同WGに本会より参画している小黒理事より、前日（6月4日）に開催された同WGにおける薬学実践実習等に関する検討概要等が報告された。

議題 4. 令和4年度改訂カリキュラム対応教材について

標記については、前回委員会（令和7年12月1日）において各委員に執筆担当を割り振り、その後提出された原稿を正副委員長及び日下部委員において、暫定版としてとりまとめた資料がこの日配付され、改めて内容について協議された。主な意見等は以下のとおり。

- 当初 PDF 版にして、日薬 HP に掲載するとの想定だったが、冊子としてあった方が使い勝手は良いのではないか。
- 本日の暫定版も、現在出版している「薬局実務実習指導の手引き（2018年版）」（以下「手引き（2018年版）」）も文字が多く、イラストを入れる等しないと、学生は読まないのではないか。
- カリキュラム通りの記載順ではなく、薬局現場の処方箋及び調剤の流れに沿った順序とした方が、現場の薬剤師には読みやすい。今回の教材の項目とカリキュラム上の項目との対比表を添付すれば、特に混乱は無いと思われる。

上記出された意見等を基に改めて正副委員長が中心となって、記載内容を修正し、必要に応じ各委員にも協力を仰ぐこととされた。また、本教材作成の今後の方向性等については概ね下記の形とされた。

- 出版を念頭に作成を進め、タブレット等用のデータ版の販売も視野に入れる。
- 暫定版で示された「場面」毎にイラスト（AI 等も活用）を入れ、視覚的に見やすくする。
- 「手引き（2018年版）」では、薬局実習を大きく4項目に分け、各項目を4つのステップに分類したパフォーマンスレベル表を作成していたが、今回は時間的に厳しいため作成しない。
- 記載順は、カリキュラムの順ではなく、薬局現場の処方箋や調剤の流れに合わせる。
- 内容については、作成後4年程度で見直しを行う。

議題5. 評価実施員の推薦について

薬学教育評価機構より、令和4年度改訂カリキュラムに基づく第3期評価の評価実施員候補者（以下「実施員」）11名の推薦依頼が本会宛にあった旨、成重委員長より説明された。実施員は調整機構の区割りで地区毎の推薦が割振られているため（8地区より各1名、更に、東京、愛知、大阪より各1名）、基本当該地区に在籍する本委員会委員に人選をお願いしたい旨同委員長より述べられ、了承された。協議の結果、各地区の推薦担当者が決まり、各担当者は推薦者につき、6月25日までを目途に日本薬剤師会事務局宛報告することとされた。

議題6. その他

この日は、薬学及び実務実習関連事項として、上記議題に加え、主に下記事項

について、報告があった。

1) 製薬薬剤師部会による薬学生向け資材の作成について

本会製薬薬剤師部会においては、薬学生向けに、製薬企業における薬剤師の業務を紹介した PDF 及び動画による資材「薬剤師が活躍する製薬企業の仕事」を作成し、4月30日付けで各薬科大学・薬学部案内した旨、事務局より報告された。

2) 大学教員薬剤師部会による「学位取得支援サイト」の作成及び公開について

令和6年度より設置され、山浦理事が担当部会長を務める大学教員薬剤師部会においては、働きながらも学位を取得する道があることを薬剤師向けに紹介した「学位取得支援サイト」を作成、本会ホームページ内に公開した旨、同理事より報告された。

3) 薬剤師国家試験出題基準改訂部会開催の件

令和4年度改訂カリキュラム対応の薬剤師国家試験（以下「国試」）が令和11年度から開始されるので、厚労省においては、同カリキュラムに基づく国試出題基準とりまとめのため、標記部会を設置している。去る6月1日に第1回部会が開催されており、同部会に大学教員の立場で出席した長谷川委員より、部会での検討概要につき報告があった。

概ね上記のとおり各議題について報告及び協議が行われ、この日の議事は終了した。最後に渡邊副会長、長津常務理事より、2年間の委員会諸活動への協力に対して謝意が述べられると共に、本委員会としては、この日も協議した令和4年度改訂カリキュラム対応教材の作成等、実施すべき業務が種々あり、委員各位には引き続き協力をお願いしたい、等述べられた。この日が令和6、7年度を任期とする本委員会として、最後の開催とされた。

以 上